<table>
<tr><td colspan="4">令和８年　第１回検討委員会　旧渋沢庭園保存活用計画</td><td>NO.1/5</td></tr>
<tr><td>日　時</td><td colspan="2">令和８年９月18日（金）10：00～12：00</td><td>場　所</td><td>飛鳥山博物館</td></tr>
<tr><td rowspan="6">出席者
(口:欠席者)
※敬称省略</td><td>学識
経験者</td><td>神奈川大学名誉教授（北区文化財保護審議会委員）
東京農業大学地域環境科学部教授
東洋大学国際観光学部教授
渋沢栄一研究家（元渋沢史料館館長）
茶道家</td><td colspan="2">■内田青藏
■粟野隆
■須賀忠芳
■井上潤
■椿邦司</td></tr>
<tr><td>地元
関係者
諸団体</td><td>王子一丁目町会推薦
西ヶ原二本榎自治会会長
飛鳥山自治会推薦
東京商工会議所北支部会長
東京北区観光協会事務局長
渋沢史料館館長
紙の博物館館長
公募区民
公募区民</td><td colspan="2">■横田正基
■堀内俊宏
■大槻英城
■越野充博
■杉山徳卓
■桑原功一
■石田浩一
■竹西城太郎
■檜垣昌子</td></tr>
<tr><td>区職員</td><td>北区政策経営部長
北区土木部長
北区教育振興部長</td><td colspan="2">■藤野浩史
■岩本憲文
■倉林巧</td></tr>
<tr><td>都職員
（オブザーバー）</td><td>東京都教育庁地域教育支援部管理課
東京都教育庁地域教育支援部管理課
東京都産業労働局観光部振興課長</td><td colspan="2">■鈴木徳子
■石井香代子
口堂田裕章</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>北区土木部土木政策課
北区教育振興部飛鳥山博物館</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">配布資料</td><td colspan="3">・議事次第
・資料１　委員名簿
・資料 2-1　旧渋沢庭園保存活用計画設置要綱
・資料 2-2　旧渋沢庭園保存活用計画検討委員会 会議の公開に関すること
・資料 3-1　無心庵及びその周辺の再興に関する考え方
・資料 3-2　事業概要
・資料４　調査方針、調査内容・方法の確認について
・資料５　事業スケジュール
・参考資料１　配置図
・参考資料２　江守奈比古『茶室入門 写真で楽しむ有名茶室 50 席』海南書房、昭和 46 年
・参考資料３　江守奈比古『茶室』朝日新聞社、昭和 24 年</td></tr>
<tr><td colspan="2">主な検討内容</td><td colspan="3">①旧渋沢庭園保存活用計画の事業の概要説明を行った。
②調査方針及び調査内容と調査方法について説明を行った。
③今年度以降の事業スケジュールの説明を行った。
④現地確認を行った。</td></tr>
</table>

内　　容	発言者等	特記事項 今後の予定等
以下、議事次第に沿って議事録をまとめる。 凡例：○　発言　→　回答・質疑等		
会議進行役　［会長：内田］		
１．開会挨拶	事務局	
事務局より開会挨拶		
２．検討委員会	事務局	
１）委員委嘱		
机上配布にて委員委嘱		
２）委員の紹介		
事務局より委員紹介		
３）会長・副会長の互選		
互選により、会長、副会長２名を選出		
４）検討委員会の運営について		
事務局より検討委員会の運営等に係る事項を説明		
３．議題	事務局	
１）事業の概要について		
事務局より、「事業概要」について説明		
２）調査方針、調査内容・方法の確認について		
事務局より、「調査方針、調査内容・方法」について説明		
３）事業スケジュール		
事務局より、「事業スケジュール」について説明		
４）現地の確認		
委員の皆さまと現地を確認		
４．質疑応答・意見交換		
○東京都指定文化財とするためには旧渋沢庭園全体の価値評価をしていただきたい。その上で重点整備として無心庵周辺の整備をする構造がよい。 調査範囲についても、まず庭園全体の掃除を行ったうえで遺構調査をすべきである。崖下まで調査範囲であるとよい。現時点では庭園内の石の配置もわからないため、掃除後に測量をしていただきたい。	副会長	
○樹木についても景観も変化に影響しているため調査していただきたい。また、石の種類や産地も調査していただきたい。	会長	
→持ち帰り検討させていただく。	事務局	
○庭園全体を文化財という目標と活用とのバランスについては、今後の検討項目となる。	会長	
→北区としては、文化財の指定を目指し歴史資源としての魅力向上および価値の向上を図りつつ、活用を行いたい。今後、検討を進める中でご助言をいただきたい。	事務局	

内　　容	発言者等	特記事項 今後の予定等
○大学の演習で飛鳥山公園を取り扱ったが、初めて飛鳥山公園へ来たという学生も多かった。無心庵の活用についても、現地を見ると困惑する学生もいる。 無心庵が復元されれば活用のイメージも付きやすい。復元に当たっては、歴史的状況を踏まえながら忠実に再現するだけでなく、活用との両立が実現できるよう今後、議論していきたい。	副会長	
○活用に関しては地元の方へのヒアリングやアンケート等も考えられる。	会長	
→参考資料として江守奈比古氏の本の写しを用意した。図面等を踏まえ、一部を集会スペースとして活用する案もあるが、今後の調査や検討のなかで、活用については具体化していけるよう、ご助言等いただきたい。	事務局	
○現時点で確認している無心庵の史料は少ない。今後、渋沢史料館から史料が見つかることを期待する。無心庵は徳川慶喜公を招くためにつくったと考えられている。そのような歴史的背景も含め活用する必要がある。また、邀月台は王子の街並みを眺めるものであった。渋沢栄一の精神を汲み、邀月台も一つの空間としてとらえていただきたい。 樹木や飛石等ももう一度、歴史的背景を含めすきとり調査前に調べていただきたい。	委員	
○邀月台は月見台とも称されており、茶室の付属施設として記載されているが、月や町を見るという渋沢栄一の意思のもと建てられたものであれば価値があるため、調査していただきたい。また、独立した茶室に、月見台といったものが付設されたお茶室は珍しく個性的であるため、加えて調査していただきたい。	会長	
○活用のためにも、無心庵の設計の経緯や具体的な使用方法等、歴史を共有する必要がある。全体スケジュールの中で、情報の共有の場を設けていただきたい。 庭園復元のための調査等については、先生方へある程度一任するが、活用や復元のための歴史について議論する場があると良い。	委員	
○無心庵については、蹲については知られていたようであるが、私が渋沢史料館の学芸員となった直後に、江守奈比古氏より頂いた『茶室』に描かれていた図をもとに敷石・踏石を確認した。 渋沢邸跡に目が向けられるようになったのは、兜稲荷社の撤去の話が持ち上がった頃よりで、その後、北区の飛鳥山公園整備計画の中で茶室・無心案の復元計画も持ち上がったことがあった。 青淵文庫の保存修理後に行った旧渋沢邸全体の調査では、古写真と照合しつつ現地を歩き、崖地の北の方にあった東屋の痕跡や邀月台の位置等も確認している。そして、本屋はじめ付属の建物等の位置出しをおこなった。渋沢史料館の書庫や清水建設さんに、その時の調査資料が残っている可能性がある。それらをもとに掘り起こしをしていくことが第一段階と考えられる。 旧渋沢庭園について、まずは面的にとらえ、その中で歴史的価値のある個々の建物や遺構を詳細に追究する必要がある。	委員	
→邀月台の復元等も含め、時間軸を整理しながらまとめていきたい。まずは無	事務局	

内　　容	発言者等	特記事項 今後の予定等
心庵周辺を先行的に進めながら、他の場所に関しても意見を踏まえ調査を進めていきたいと考えている。		
○敷地取得後、渋沢氏がどのようにして生活の場を作ったのか、重層化し形成された庭園全体を資料調査の対象とし、時間軸の中での変遷を丁寧に調べていただき全体の把握をしていただきたい。その中で付属施設の成り立ちや、茶室の変遷等もわかると価値となる。	会長	
○北区役所として産業振興の観光担当との情報共有はしているか。	委員	
→これまでも議会を含め取り組みについては確認していただいている。本件についても事前に資料を共有しており、結果についても今後共有する。 また、更に検討を深める中で部会に参加していただくことも視野に入れている。この他、シティブランディング担当とも連携を取っていく。	事務局	
○部会は必ず開催していただきたい。 他の所で同様の場所を活用した観光事業がおこなわれているか、教育的な面や渋沢氏の精神の伝え方など事例を調査し、共有する場を設けていただきたい。 早い段階から共通認識を作るためにも組織を動かしていただきたい。	委員	
→全体スケジュールの中で保存・活用共に並行して議論していきたい。事例の共有についても調査し進めていきたい。	事務局	
○旧渋沢庭園の価値について情報共有させていただく。 北区には全国を代表する庭園が２つあり、旧古河庭園と旧渋沢庭園であると考えている。旧古河庭園は近代建築の父、ジョサイア・コンドルが洋館・洋庭を設計しており、日本庭園は京都を拠点に活動する庭師７代目小川治兵衛が作庭した、ジョサイア・コンドルの晩年の作及び小川治兵衛が東京進出した最初の作品として評価されている。 一方、旧渋沢庭園は東京を代表する庭師である２代目松本幾次郎が茶人 益田克徳と共に計画し無心庵周辺の庭の施工を行った。2 代目松本幾次郎は、東京都根岸の庭師である。造園分野で知られているが、小川治兵衛ほどではない。しかし、日本の近代庭園である自然主義の形成に尽力をした庭師である。松本氏の作品には港区シェラトン都ホテル東京以前の藤山雷太氏の邸宅や目黒のツムラの創業者の邸宅などが挙げられるが、現存しない。そのため、松本氏の造園した庭園で地割が良好な状態で現存する渋沢庭園は学術的に価値がある。 また、青淵文庫周辺の芝生の庭は大隈重信が大阪から連れてきた佐々木可村が手掛けたと言われている。佐々木可村の作品には雉子橋の大隈重信の最初の邸宅や山梨県の結城公園が挙げられる。ただし、佐々木氏の手がけた洋風庭園のうち完存するものはほとんどなく、渋沢庭園は日本の庭園の歴史上重要である。これらを踏まえ、渋沢庭園の本質的価値を上げ、その魅力や価値を社会に還元するような活用を議論する必要があると思う。	副会長	
○現在行っている渋沢庭園の活用について共有する。渋沢庭園の芝生では、北区ハワイアンフェスティバルを開催している。全国のフラダンス愛好家の方たちがフラダンスを踊り、多くの方が集まる。また、青淵文庫ではプロジェクションマ	委員	

ッピングを実施している。ハワイアンフェスティバルは、渋沢庭園にハワイのカラカウア王が明治の初期に国賓として訪れていたという故事を踏まえて実施している。		
○深川の渋沢邸の建築・移築を清水建設がおこなっているが渋沢栄一と清水建設との関係性を伺いたい。	委員	
→渋沢栄一と清水建設は非常に深い繋がりがあるので、徐々に発信させていただく。	事務局	
○無心庵は茶人にも知られていないため、価値を広める必要がある。裏千家の寒雲亭の写しであり、櫛形の欄間や舟底天井等がみられる。無心庵も再興し、活用も含め盛り上げていきたい。	委員	
○意見を反映し、作業やスケジュールを見直し、今後の進め方の提案をしていただきたい。	会長	
５．閉会挨拶	事務局	
事務局より閉会挨拶		